

してみる形の意味

須永 哲矢

1. はじめに

動詞連用形+「てみる」という形（以下シテミル形と呼ぶ）の意味としては、真っ先には「試しに～する」とでもいうような意味が思い浮かぶ。

(1) 今でも使えるか、スイッチを押してみた。

上記(1)がそのような例であり、試しにすることである以上、一般にシテミル形で表される動作は意志的な行為である。

しかしある場合には意志的でない場合にもシテミル形をとることがありえ、その場合、上のような「試しに～する」という意味とも言えなくなってくる。

(2) 実際終わってみれば、たいした事はなかった。

上記(2)の「終わってみれば」というのは無意志的な変化であり、(そうである以上それと連動して)「試しに～する」という意味も読み取れない。ここでのシテミル形の意味は、「その場になったら」という程度の意味であろうと思われる。

(2)のような例がある以上、全てのシテミル形の意味を「試しに～する」とはとらえられないのはもちろんであるが、さらに(2)のように無意志のシテミル形が使用可能になるのは主に条件句の前件での使用に限られ、(2')のように文末にすると無意志シテミルは不可能である。

(2') ?終わってみた。たいしたことはなかった。

このようにシテミル条件句を主文にする場合、シテミルなしで「終わった。たいしたことはなかった」と語る方が自然であり、むしろ(2')のようにシテミルのまま表現すると、かえってそのことによって、むしろ特別に意図的に「終わってみた」かのような感じをもたらす。

このことから、シテミル形は文末か条件句中かによって、意志的動作に限られるか否かが変わってくる、またシテミル形が実現する意味も変わってくるのがわかる。このような事実あるいは傾向自体は従来から指摘されているが、[注1]実際は単に文末か条件句の前件かというだけで二分できるものではないと考える。そこで本稿ではシテミル形の意味について考えると共に、その使用環境（主に文末か条件節か、またシテミル形自身の述語形態；シテミタ、シテミタイなど）に応じたシテミル形の用法を観察することにする。

2. シテミル形の意味

2. 1 <試み>と<その時点での状況>

上でみた通り、シテミル形の意味は、文末でよくみられる「試しに～する」といった意味（以下、仮に<試み>と呼ぶ）と、条件句中でよくみられる、「試み」という色合いの特にない、その場の状況を語るような意味（以下、仮に<その時点での状況>と呼ぶ）との2つが考えられる。まず、条件句中の場合。

(3) (前の晩はあんなに熱があったのに、) 朝になってみると熱はすっかり下がっていた。

このように条件句中ではシテミル形で語られている事態が無意志の場合が許され、ここでのシテミル形に<試み>の意味を読み取ることは出来ず、この場合は明らかに<その時点での状況>を表していると考えられる。

これに対し、文末ではいわゆる<試み>の意味が感じられる。

(1) 今でも使えるか、スイッチを押してみた。

以上を見る限り、

文末：意志的・・・・・・<試み>

条件句中：無意志的・・・・・・<その時点での状況>

という対称が見られるが、文末であることと動詞が意志的であることと<試み>であることの3つ、および、条件句中であることと動詞が無意志的であることと<その時点での状況>ということの3つは完全に連動するわけではない。文末の場合、動詞は意志的

であるものに限られるが、条件句中の場合、動詞は無意志的なものも許されるということであって意志的な動詞であってももちろんかまわない。さて、そのように条件句中、意志的な場合にどうなるかを示すのが（1'）である。

（1'）今でも使えるのかと思って、スイッチを押してみたら動かなかった。

（1'）の「押してみたら」は、（1）とのつながりにおいて考えるなら、「今でも使えるのかを知るために試しに押した」と解釈することができ、＜試み＞といえる。しかし一方で（2）と同様に＜その時点での状況＞と捉えることも可能である。どういうつもりで押したのかはとりあえず措くとして、実際押した結果動かなかった、ということ看重視するならば、（3）と変わらず＜その時点での状況＞といってよいだろう。このように条件句、意志動詞の場合には＜試み＞と＜その時点での状況＞どちらもいえるということになる。

実際は、

（ア）条件句中のシテミル形であれば＜その場の状況＞に読める。

（イ）シテミル形をとる動詞が意志的であれば＜試み＞に読める。

ということであろう。

2. 2 シテミル形の意味

さて、このような2つの意味を持つシテイル形自身の共通性格について簡単に考えてみたい。

シテミル形は、その語構成上、動詞連用形＋接続助詞「て」＋動詞「見る」から成り立っている。もちろんシテミル形は全体として一定の文法的意味を表す形式となっており、「て」の意味および本動詞「見る」の意味の足し算から即座にシテミル形の意味が導けるわけではないが、それと同時に本来は「て」＋「見る」であったということから考え始めるといって自体はさほどの外れでもないだろう。

（4）後ろを振り返ってみると月が傾いていた。

例文（4）、「振り返ってみると」のシテミル形は、単に振り返ったときにとらえた情景を語るとみれば＜その時点での状況＞といえるし、例えば後ろの景色を知りたくて試しに振り返った、というふうには＜試み＞であるととらえることもできるだろう。さて、こ

こでの「振り返ってみると」の「てみる」は、本来の「て+見る」と解釈してもよさそうな例である。すなわち、

(4') 振り返って、(景色を) 見ると、月が傾いていた。

この意味は<その時点での状況>の意味に極めて近い。シテミル形をとっている前件動詞事態成立時点で「見えたもの」を後件で語る、というのが<その時点での状況>なのではないだろうか。

もちろん、シテミル形において「見る」のは視覚的に限られたものではなく、経験、認識、といった、いわば拡張した意味で「見て」いるのである。それにしても以下の例のように、<その時点での状況>のシテミル形は、シテミルを用いないただの「すると」とくらべると、やはりある種の「視点」のような感覚が濃厚に感じられないだろうか。

(3') 朝になると熱はすっかり下がっていた。

(3) 朝になってみると熱はすっかり下がっていた。

そこで本稿では、<その時点での状況>を動詞事態成立時点での認識を語るもの、と把握したい。

さて、一方の<試み>の方はどうであろうか。本稿で日常的な感覚を持って簡単に<試み>としている用法は、従来定義される際には「何かを知るためにそのことをする」という形で定義されることが多い。[注2]

(5) 座敷に誰がいるのか、そっと襖を開けてみた。

例文(5)の<試み>の場合、「座敷に誰がいるかを知るために、襖を開ける」というわけである。さて、これを条件句にして複文化したのが(5')である。

(5') 襖を開けてみると、山田さんが来ていた。

意志動詞シテミルを複文化すると<試み><その時点での状況>両様に読めることは前述のとおりだが、この「襖を開ける」→「見る」→「山田さんがいる」の流れを<その時点での状況>にとるということは、襖を開けることと山田さんがいたという結果を、継起的にとらえることである。それに対し<試み>の場合というのは、さらに「山田さんがいた」という結果を知るための手段として「襖を開けた」ととらえられる場合とい

えるだろう。つまり、複文において考えるなら前件、後件を継起的にとらえるのみの場合が<その時点での状況>、その前件を後件で示される結果を知るための手段と読み込んだものが<試み>であると考えられる。シテミル形は複文の場合、<その時点での状況>の方に読みやすいようだが、それはシテミル形をとった動詞事態が実現した際の結果（すなわち後件）が明示されている場合、その動詞事態が本来は後件の結果を知るための手段であったとしても、事実としては単に継起的な2つの事態に読めてしまい、その前件成立時点でそれは後件を認識したときの状況として読めてしまう、ということによるのだと考えられる。

さて、条件節で考えた場合、シテミル形の前件に対して後件は前件成立後の事態、結果、ということになるのだが、その際前件が後件を知る手段としてとらえられたものが<試み>であると考えた。ここから主文述語の場合の<試み>についても考えたい。

シテミル形というのはその動詞事態が実現した後の結果、状況を「見る」。条件節となっている場合、その「見」た結果が後件として明示されており、それを単に継的にとらえるならば前件句のシテミルを<その時点での状況>とみることもできる。しかし、シテミルが主文述語である場合、その後「見る」べき結果、状況は示されない。つまり、何を「見る」かはその文の形としては不明のまま、それでいてなおその動詞事態実現後「見る」というのである。結果不明示でなお、結果を「見る」というとき、そのときの動詞事態は結果を知るための手段、という立場に読み取られるのではないだろうか。それが<試み>であると考える。文末のシテミル形は原則的に<試み>であり、意志的な動作に限られる。[注3] 無意志的な事態は、目的のための手段と位置づけることはできず、しかもその結果が不明示であるとするならばただ継起的事態の前件状況と読むこともできない。そのために文末のシテミル形において無意志的な事態は使えないのではないだろうか。

以上から本稿ではシテミル形を

その動詞事態成立後の結果、状況を認識することをあらわすもの、

と考える。

その結果や状況が明示されている場合、シテミル形の動詞事態とその結果、状況を素直に継的に読めば<その時点での状況>、前件後件に手段と目的の関係を積極的に読み込んでいけば<試み>、また、その結果がそもそも明示されていない場合は単純な継起的な読みはありえず、結果を知る手段としての行為、結果への関心を持った行為、としての読み、すなわち<試み>になると考える。[注4] 文末、条件句中いずれにせよ、シテミル形の特徴は、その結果への意識、という色合いがつきまとうことにあると考えたいのである。

3. シテミル形の使用環境と意味

本節ではシテミル形の意味（本稿では大きく分けて〈試み〉と〈その時点での状況〉）とシテミル形の使用環境（条件句中か否か、またシテミル形自身の形態：シテミル、シテミタなど）との関係を観察する。

大筋としては前述の通り、

文末・・・・・・・・・〈試み〉

条件句中・・・・・・・・・〈試み〉〈その時点での状況〉

であるが、若干の例外も見受けられるので、以下、注目すべき事実を書き留めておく。

3. 1 文末（スル、シタ、シヨウ形）

文末のシテミル形の場合、実際にはシテミル、シテミタ、シテミヨウといった形をとりうる。これらの場合、原則どおり動詞は意志的なものに限られ、〈試み〉の意味であるといえる。以下では〈試み〉の意味のさまざま、および「意志的」ということに関して補足しておく。

3. 1. 1 〈試み〉に関して

文末のシテミル、シテミタ、シテミヨウは、原則どおり〈試み〉の意味になると考える。ただ、〈試み〉といってもその中にもさまざまなものがありそうである。

〈試み〉の用法は、「何かを知るためにそのことをする」と定義されることが多い。本稿ではシテミル形の性格を、その後の結果を認識することをあらわす、ととらえたわけだが、「その後の結果」というのがここで知ろうとしていることである。

「～か（どうか）」など、知りたい内容が明示されている場合がもっともわかりやすい。

(6) 家の中がどうなっているのか、ドアを開けてみた。

この場合、中に何が入っているか知るための手段として開けた、といえる。

さて、〈試み〉というのであれば、その行為の結果どうなるかを知ろうと試みる場合の他に、その行為自体が実現するかどうかを試みる場合もありうる。

(7) (?) このドアが開くかどうか、開けてみた。

例文(7)は「開く」が実現するか否か自体を試みているのであるが、このような表現は若干落ち着きが悪い。[注5] 目的が「開くかどうか」の場合、それを知る手段としての行為の方は(15)のように「調べる」「確かめる」など、あるいは開けるための運動である「押す」など、動詞を替えるほうが自然であろう。

(7') 開くかどうか、調べてみた。／確かめてみた。／押してみた。・・・

結果を知るための手段として何かをする、という<試み>であるとするならば、その目的たる「知りたいこと」は、その手段としての行為とは基本的に区別されるのだろう。

さて、以上では<試み>に関して、その行為自体が実現するかを問う試みはなじみにくい、という点を指摘したが、<試み>に関してはもう一点、何かを知ろうという感じが薄いものについて考えておきたい。

今までは<試み>のシテミル形について、典型的には「〜か(どうか)」と共起するような表現を扱ってきた。それは<試み>の一つの典型であろうし、従来の「知るためにそのことをする」、あるいは本稿前節で考えた「結果を知るための手段」という規定になじみやすいものである。しかし、文末のシテミル形にはさほど結果を知りたいとか、手段であるとかいった色合いが感じられないものもある。

(8) 近くに来たものだからちょっと寄っていただけです。

(9) まだ時間があるから、ちょっとその辺を歩いてみましょう。

これらには結果を知る手段として寄ったり歩いたりするという感じは強くない。むしろ気軽さを感じさせる。しかし、これらに関してもシテミル形に共通の結果への意識、というものはやはり指摘できるように思われる。(8)(9)とも、寄ったらどうなるか、歩いたらどうなるか、という関心は感じられる。特に(9)はわかりやすいだろうが、この発話がなされる状況として考えやすいのは、例えば集合時間に早く着いた、という場合だろうが、その集合場所について想像してみるならば、そこは初めて来た場所であると考えられるだろう。慣れた町なら

(9') 暇つぶしにその辺を歩いてみましょう。

でよいはずである。慣れない町だからこそ、「歩いてみる」そしてその結果その辺の景

色を知る、ということであり、その限りではシテミル形共通の結果への意識は感じられる。ただ、典型的な<試み>のようにそれを知るための手段、というほどの強い意識をもってその行為を行うわけではない、という程度の差であるといえる。(8)(9)は、その結果を意識しつつその行為を行う、といったところであろうか。

「結果を知るために行う」という感覚からは離れそうなものとしては、他に(10)が挙げられる。

(10) うまくいくとは限りませんが、まあやってみます。

これには(8)(9)以上に、やった結果が知りたいという気持ちが感じられない。もちろん結果を知るための手段としてやるわけでもない。しかしこれも含めて、日常的な感覚では<試み>と呼んでよいだろう。(10)の「やってみます」は「やります」と比べると、「結果の保証はできない」という色合いがみて取れる。ということは、「結果はわからない」という形での結果への意識はやはり指摘できる。

以上からすると、仮に<試み>と呼んできたシテミル形文末の用法を、2節で考えたように「結果を知るための手段としての行為」、ととらえるのはややきつすぎるのがわかる。

シテミル形というのは(文末でも条件句中でも)その結果を意識させる表現である。文末のシテミル形の意味というのは、その結果を何らかに意識しながら(しかも結果を明示せず)文を終える、というのがポイントになると考えられる。その中には結果の保証ができないという(10)のようなものや、結果に関する明確な見通しのない(8)

(9)のようなものもある。それらを含めて、日常的な感覚で<試み>と呼んだのであり、文末での意味のポイントは、実際は「結果を何らかに意識しつつその行為をする」という点にあると考えたい。

結果を意識させるシテミル形は、文末ではその結果を意識しつつも、その結果は明示されない。その「結果への意識」こそがシテミル形共通の意味であると考えたい。それはある場合には「結果の保証はできないがとりあえずやる」というような形での「結果への意識」となり、ある場合には「その結果を知るためにこれをやる」という「結果への意識」となる。つまり、2節で考えた「知るための手段」というような場合というのは、文末での「結果への意識」の一つに過ぎないと考えるのである。

一方、シテミル形が条件句に入り、複文となった場合には後件でその結果が明示される。となれば前件と後件を継起的にとらえ、「その結果はこうでした」と読まれる、というのが<その時点での状況>なのであるが、シテミル形の前件部分でいったん意識を切り、その時点では結果を意識しつつ結果は不明、という読みを強くすると、文末と同様に<試み>の読みになると考えたい。

3. 1. 2 「意志的」に関して

既に述べているとおり、文末のシテミル形は意志的な動詞に限られるのだが、シテミル形での言い切りということ自体が、もとの動詞以上にかなり強い意志性をもつようである。

まず、前述のとおりシテミル形は条件句中では無意志動詞も使用可能である。

(11) 親を亡くしてみると、親のありがたさがよくわかった。

これに対してこれを文末に変換すると不自然になるのは前述のとおりである。

(11') ?親を無くしてみた。親のありがたさがよくわかった。

例文(11')は全体としては親を亡くした結果が明示されてはいるが、それでも主文述語となったシテミル形は不自然である。2節ではシテミル形の文末での意味を、結果を意識しつつ結果不明示、という点からとらえたのだが、その結果というのは、次の文で示されていても、それではシテミル形の意味には影響を及ぼさないようである。あくまで一文内での結果明示・不明示という点が関わっているらしい。(11')を適切な表現として受け止めようとするならば、単に親が亡くなったのではなく、(試しに)意図的に親を亡くした、というようなニュアンスを感じることになる。このように主文述語でのシテミル形はあくまで意図的な行為でなければならないようである。シテミル形で言い切るということは、そのこと自体が意図的な行為であるという読みを強く促すことになると考えられる。

このことは次の例でもわかる。

(12) 会ってみると気さくな人だった。

(12') 山田さんに会ってみた。気さくな人だった。

条件句の(12)も文末の(12')もともに許容できる表現であるが、「会う」というのは意図的に会うことも、意図せず偶然会うこともありうる。(12)と(12')を比較すると、条件句中の(12)では、前もって約束して(意図的に)会った場合とも、偶然出会った場合とも考えられる。しかし、文末の(12')では、意図的に会ったとしか解釈できない。このことから、シテミル形の言い切りというのは、意志ないし意図というものを濃厚に感じさせることがわかる。

3. 2 条件句中のシテミル形

条件句中では、前述のとおりシテミル形であらわされる事態は無意志的でもかまわない。無意志動詞であればもちろん<試み>の意味はなく、<その時点での状況>を表すことになるが、意志動詞であっても<その時点での状況>を表すことに変わりはなく、<試み>の意味に関しては、読み込めるなら読み込んでもいい、というものである。

(13) 翌日になってみると、騒ぎは収まっていた。

(14) 一球外してみると、相手はバットを振らなかった。

さて、ここでは全ての条件節が意志ないし意図に関して自由なわけではない、ということを描いておく。

(15) 朝になってみても、何も起こらなかった。

(15') ?朝になってみたのに、何も起こらなかった。

このように、同じ条件句でも「と」と「のに」では許容度が変わってくる。「のに」の方では、この表現をあえて受け入れようとするなら、ちょうど文末のように「意図的に朝になった」というニュアンスを感じることになる。

現時点では詳細は明らかではないが、どうやらその接続詞がスル/シタの対立を持つか否かで事情が変わってくるのではないかと考えられる。「のに」は「～するのに」「～したのに」というようにスル/シタの対立を持つ点が「ば」「と」「たら」などとは異なる。「が」「から」「けれど」「のに」など、スル/シタの対立をもつ接続詞の場合、振る舞いが文末に近くなり、無意志動詞を受け入れにくくなるようである。

以上文末、条件句中でのシテミル形を概観したが、やや違った振る舞いを見せる形態としてシタイ形、命令形がある。最後にこの2つを観察することにする。

3. 3 シタイ形

文末のシテミルが、シテミタイという形をとった場合、通常の文末にはみられない事実が観察される。それは無意志的な場合もありうるという点である。シテミタイの場合、例えば(17)のような受身でもシテミル形が許容される。

- (16) 世間で騒がれてみたい。
(17) 金持ちになってみたい。

これらには、さほど典型的なく試み>らしい意味は感じられないが、それでも「結果への意識」というものはやはり感じられる。(16)にしても(17)にしても、シテミル形でない(16') (17')と比較すると、「世間で騒がれること」「金持ちになること」自体を明確に望んでいるのではないことがわかる。

- (16') 世間で騒がれたい。
(17') 金持ちになりたい。

(16') (17')はそのことを望んでいる、そのことが自分にとって望ましい、好ましいといえるのだが、シテミル形の(16) (17)はそうなった状況を経験したい、というだけで、経験できれば気がすむのである。(16) (17)では、(16') (17')とは違って、世間で騒がれつづけること、金持ちでありつづけることに関して、それを望ましいと言い切るつもりは感じられない。やはり「そうなったときの気分を味わいたい」というだけであって、それと同時にここにシテミル形特有の「結果への意識」が感じられる。

[注6] [注7]

3. 4 命令形

最後に命令形を観察したい。文末のシテミル形は、もちろん命令形にすることもできる。

- (18) できるところまでやってみる。
(18') できるところまでやってみろ。

しかし、命令形には文末にはありえない用法がある。

- (19) この事実が世間に知れわたってみろ、大変な騒ぎになるぞ。

例文(19)はさまざまな面で興味深い。

まず、動詞が無意志的であり、(20)のようにスル/シタ形にすることはできない。

- (20) ?この事実が世間に知れわたってみる/みた。

また、ここでのシテミロは命令形ではあるものの、一方で (21) のように仮定条件に近いものを感じさせる。

(21) この事実が世間に知れわたったら大変なことになるぞ。

と同時に、(19) のシテミロは、後に続く文がないと不安定である。

(19') ?この事実が世間に知れわたってみろ。

この事実からもこのようなシテミロは複文の前件的であり、実際 (19) においても感覚的に選択したのだが、シテミロとそれに続く次の文との間は、「。」よりも「、」にしたようなつながりを感じる。意味的にも条件句での〈その時点での状況〉との近さが感じられ、そのような事態が実現した場合を想定することを命令しているととらえることができるだろう。

4. おわりに——付・シテミル形の主語

以上本稿ではシテミル形の意味に関して、その使用環境との関連において考察してきたが、現時点では部分的な事実指摘が中心であり、より詳しい調査や考察はまたの機会に譲らざるをえない。

本稿の最後に、シテミル形の主語について少し考えてみたい。

意志動詞で文末のシテミルに関してはその主語は何か、問うまでもないだろう。

(22) 太郎は中をのぞいてみた。

例文 (22) の「のぞいてみた」の主語は明らかに「太郎」であろう。

しかし一方で前節例文 (19) はどうだろうか。

(19) この事実が世間に知れわたってみろ、大変な騒ぎになるぞ。

「知れわたる」のは「事実」であるが、「知れわたってみる」の主語を考えると、それはやはり「事実」なのだろうか。そうは言いがたい感覚がある。

命令文は基本的に主語があらわれない。(19) は命令形の文でありつつが格項が出ているという点で、まず特殊なものであるといえよう。命令文でも場合によっては格項

があらわれることはあるが、そのときのガ格項は命令相手であり命令内容の動作主である。

(23) おまえがやれ。

命令文のガ格項、主語が本来命令相手であり命令内容の動作主であるとするならば、(19) のシテミロの本質的な主語（より正確には、少なくとも「見る」の主語）は命令相手であり、命令相手が「この事実が世間に知れわたった」状況を想定し、すると大変な騒ぎになることを「見る」と考えられるのではない。

そう考えるならば、条件句中のシテミル形も同様に考えられそうである。

(24) 試合が終わってみると、後悔がこみあげてきた。

(25) 太郎が帰ってみると、急に座がしらけた。

これらの例でも形の上での主語とは別に、理念としての主語を、誰が「みる」のかという形で問うならば、前件句のガ格でも後件句のガ格でもなく、「後件事態を認識する者」が考えられる。ここに<その時点での状況>とした条件句中のシテミル形の特徴があり、それがシテミル形条件句における「視点」のようなものを感じさせているように思えるのだが、これについても今後の課題である。

[注]

- (1) 吉川（1975）など。
- (2) 例えば吉川（1975）では「あることを知るためにする動作をあらわす」「ある動作をした結果の状態を知るためにする動作をあらわす」と細分しており、石川（1985）でもシテミル形の意味を「知るためにそのことをする」と把握している。
- (3) 例外に関して3節で紹介する。
- (4) この考えについては、さらに3. 1. 1で修正する。
- (5) これと関連して、たとえば逆接の場合、「開けてみたが開かなかった」という言い方は落ち着きが悪い。
- (6) 本稿の筆者は～シタイという願望表現の格について、欲求の対象が求められるものである場合、ガ格を取りうると考えている。（別稿を予定）

(イ) 酒を飲みたい。

(ロ) 酒が飲みたい。

このようにシタイ形の文は、ある場合にヲ格とガ格が交替しうる。ガ格になりうる場合として、まず「飲みたいものは何か」という問いがある場合が考えられるが、そのような文脈なしでガ

格になる場合というのは、その対象を求めている場合であると考えられる。(イ)に対し(ロ)はより切実に酒を求めている感じがする。

これに対して(ハ)のような場合、とくにゴミを求めるわけではないので、「捨てたいものは何か」という問いでもない限りヲ格をガ格に交替させた(ニ)は不自然である。

(ハ) ゴミを捨てたい。

(ニ) ?ゴミが捨てたい。

ここでシテミル形を考えると、(イ)(ロ)に対し(ホ)(ヘ)では、問いに対する答え、という文脈でもない限り(ヘ)のようなガ格表示は不自然である。

(ホ) 酒を飲んでみたい。

(ヘ) ?酒が飲んでみたい。

この点も、シテミタイが求めているのはそれ自体ではなく、その結果の気分などであることと関連していると思われる。

- (7) 本稿の筆者はシテミタイ、および次で扱うシテミロに関しては、無意志動詞も用いられるという点、条件句中に近いと言えるが、さらに意味の面からもこれらは条件句中(本稿で仮に呼ぶところの<その事典での状況>に近いものを感じている。この点に関しては高橋他(2005)に興味深い指摘がある。高橋他(2005)では、シテミル形をもくろみ動詞(なにかのためにおこなう動作をあらわす動詞)のひとつととらえた上で、その意味を①ためしにする動作をあらわす。②じっさいに動作(体験する動作、実現する動作)がおこなわれることをあらわす、と二分する。①を本稿での<試み>②を本稿での<その時点での状況>ととらえてよいだろうが、②に関して「この用法は、おもに「したい」のかたち、または、条件形でつかわれる。ときに、命令形「してみろ」が文末述語につかわれることがあるが、このばあいも、つぎの文でのべられることの条件をあらわしている」(p. 104)とある。

[参考文献]

- 石川守(1985) 「「～てみる」と「～ようとする」に関する一考察」『語学研究』41
- 高橋太郎他(金子尚一・金田章宏・齋藤美智子・鈴木泰・須田淳一・松本泰丈)(2005)
『日本語の文法』ひつじ書房
- 松木正恵(1997) 「「見る」の文法化—「てみれば」「てみれば」「てみたら」を例として—」『早稲田日本語研究』5
- 吉川武時(1975) 「「～てみる」の意味とそれの実現する条件」『日本語学校論集』2 東京外国語大学外国語学部附属日本語学校

(すなが てつや 大学院博士課程3年)